

経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	24	対象	ド透I未訓ガ	救護が感へ災地
人口(人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	44,010	-	第2種該当	7 : 1

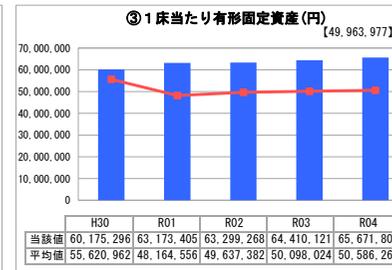
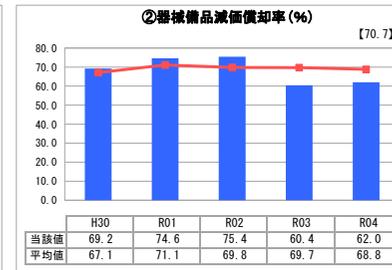
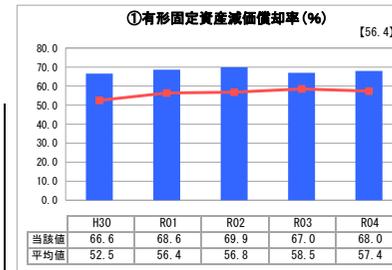
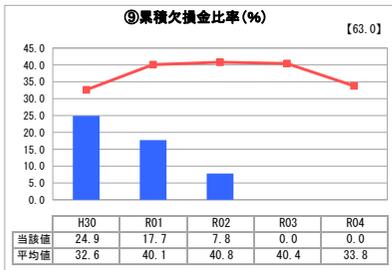
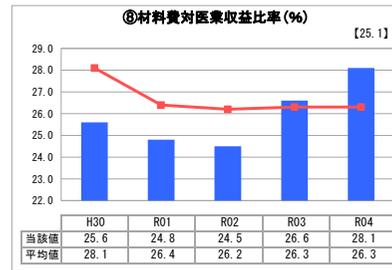
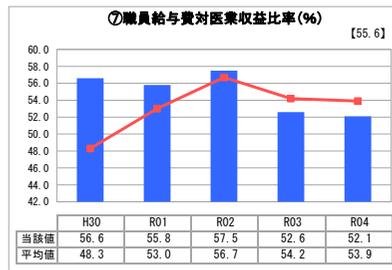
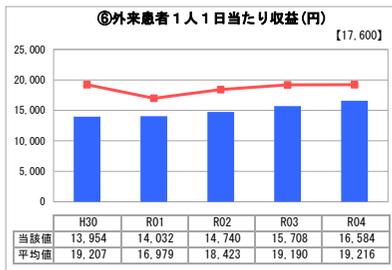
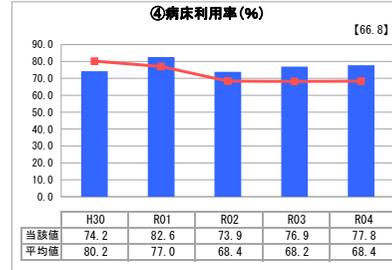
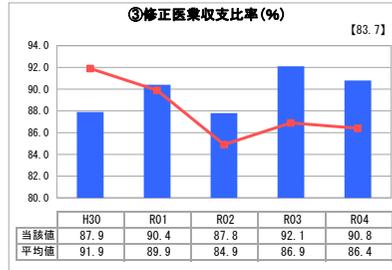
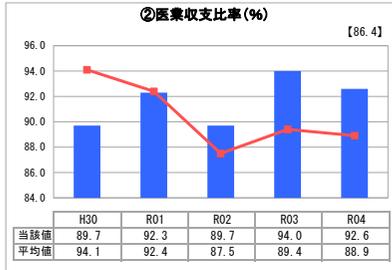
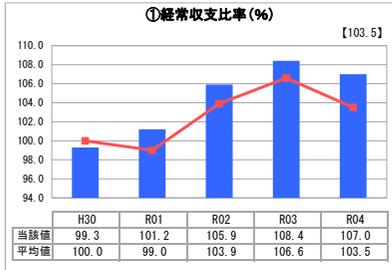
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
446	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
46	4	496
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
375	-	375

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
機能分化・連携強化 (従来の病種・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

公立置賜総合病院は、置賜二次保健医療圏の中核医療機関として高度・専門医療を提供するとともに、小児・産科医療、精神医療等の専門医療を担い、災害拠点病院としての機能、臨床研修指定病院として研修医を育成する教育機能も有している。また、置賜地域唯一の救命救急センターを併設し、救急医療を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院・外来の「1人1日当たり収益」は高額薬剤を使用する患者の増等により増加した。「医業収支比率」は医業費用の増加により1.4ポイント悪化したものの、類似病院平均値を3.7ポイント上回った。なお、精神科を有するため、入院・外来ともに診療単価は他病院と比較すると低い状況にある。「経常収支比率」は、「医業収支比率」の減少等により1.4ポイント悪化した。「職員給与費対医業収益比率」は医業収益の増加により0.5ポイント改善した。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は、前年度より1.0ポイント増加、類似病院平均値より10.6ポイント上回っており老朽化が進んでいる。以上から、有形固定資産の中でも特に建物（施設・設備）の長寿命化への対応のため、大規模な改修費用の計上が見込まれる。

全体総括

物価高騰の長期化などにより、医業費用の増加で「医業収支比率」は悪化した。今後は、人口減少に伴う患者数の減少、建物老朽化による支出の増加等の課題が懸念されるため、引き続き診療単価の増額等による収益の確保や、更なる費用の削減を図ることにより医業収支を改善し、健全経営に努めていく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜長井病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	透訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	4,284	第2種該当	-	15：1

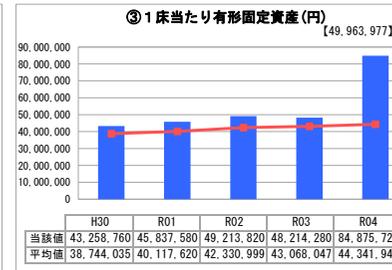
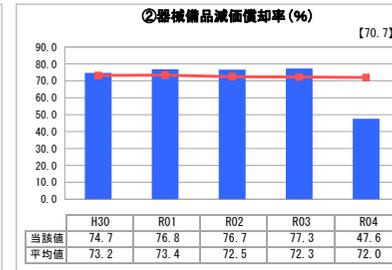
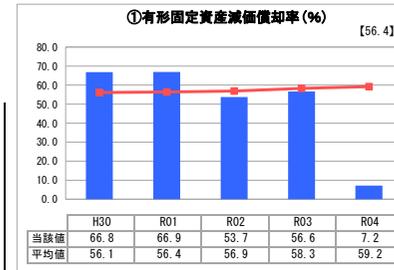
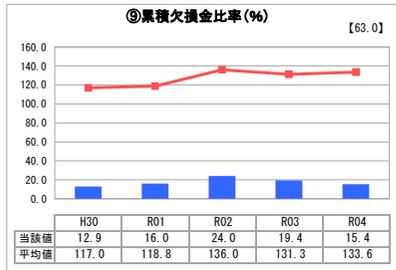
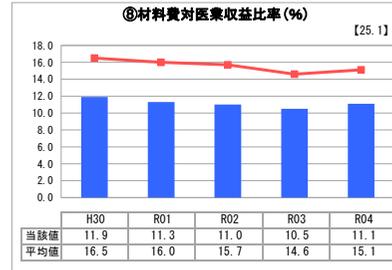
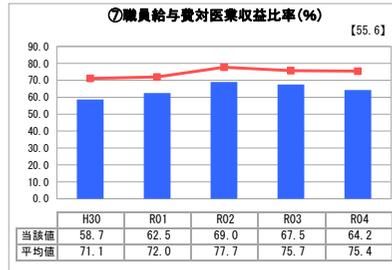
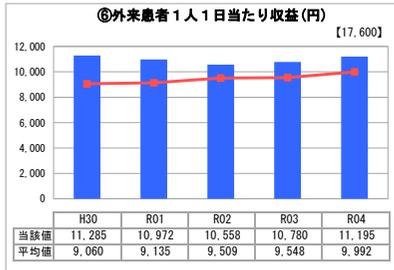
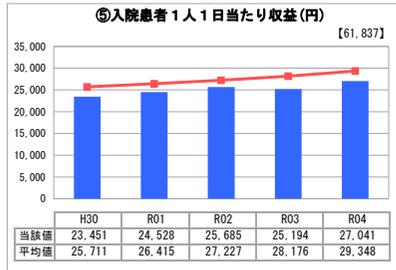
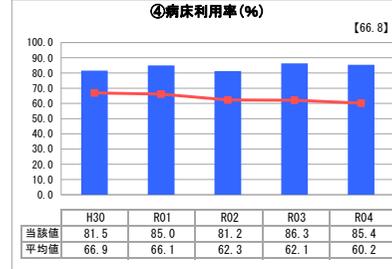
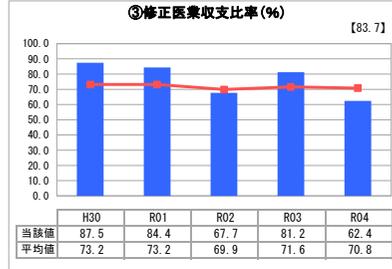
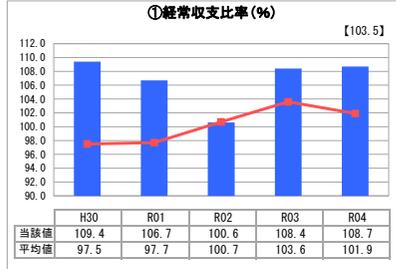
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
50	-	50

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

公立置賜長井病院は、高度医療や救急医療を提供する公立置賜総合病院との機能分化及び密接な連携を図りながら、より住民に身近なサテライト医療施設として、初期医療や回復期医療を提供している。
また、『長井市地域包括支援センター長井病院支所』・『長井市訪問看護ステーション』・医師会による『地域在宅医療連携推進室』を院内に併設し、地域医療との連携に取り組んでいる。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、類似病院平均値よりも6.8ポイント上回り、前年度より0.3ポイント増加している。医業収支比率は、類似病院平均値よりも12.2ポイント下回り、前年度より18.8ポイント減少している。
新型コロナウイルス関連補助金により医業外収益を確保することができたが、病院改革に伴う建物解体により固定資産除却費が増加したことが要因と分析した。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、前年度より49.4ポイント減少、類似病院平均値より52.0ポイント下回っている。
器械備品減価償却率は、前年度より29.7ポイント減少、類似病院平均値より24.4ポイント下回っている。
令和4年度に病院の改築が完了したことにより、有形固定資産及び器械備品の老朽化は大きく改善された。

全体総括

新型コロナウイルス関連補助金の交付により経常収支比率は前年と同程度の水準であったが、令和4年度に病院改築が完了し建物解体による固定資産除却費が膨らんだため、医業収支比率は大きく減少した。
今後、特に外来患者数の減少が進むと予想されるため、引き続き医業収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜南陽病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	3,850	第2種該当	-	15：1

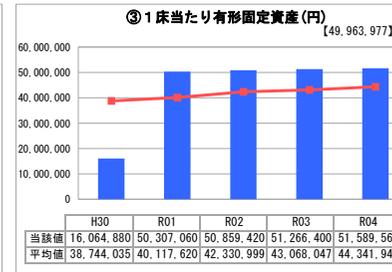
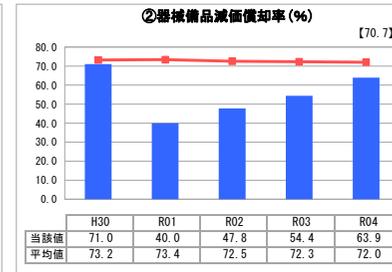
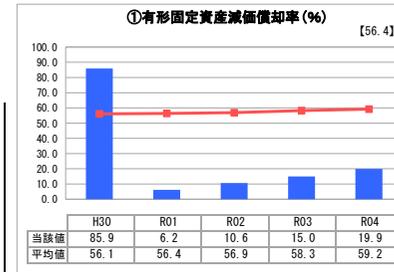
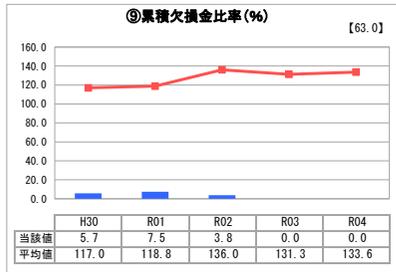
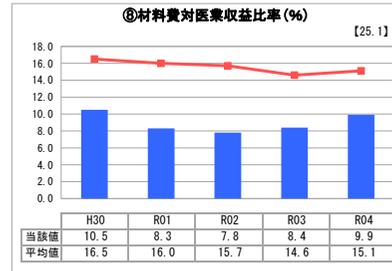
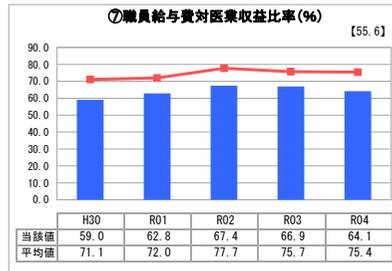
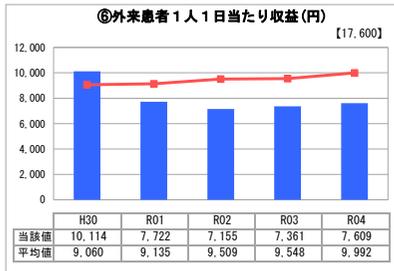
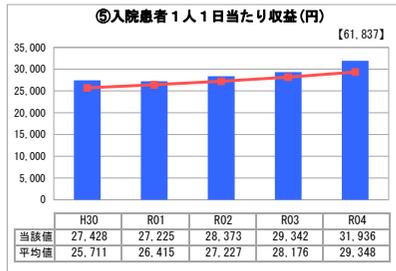
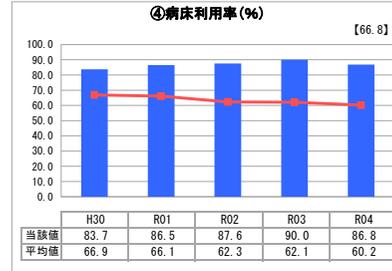
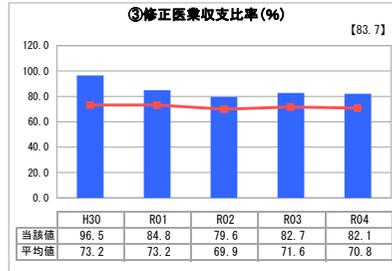
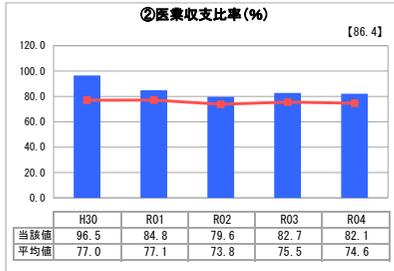
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
49	-	49

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）		
機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

高度医療や救急医療を提供している同企業団の公立置賜総合病院と機能分化を図りながら、より住民に身近なサテライト医療施設として、初期医療や回復期・慢性期医療の提供を行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

新型コロナウイルス感染者数の増等や入院患者の診療単価が増加したものの、入院患者数の減少等により医業収支比率は、前年度比0.6ポイント悪化している。また、長期前受金戻入などの医業外収益増加の影響もあり経常収支比率は0.5ポイント改善している。新病院改築後、「外来患者1人1日当たり収益」が類似病院の平均値を下回っている状態が続いているが、ほかの指標については平均値以上を維持している。

2. 老朽化の状況について

令和元年に病院改築をしたことから、1床当たりの有形固定資産は類似病院平均値より多い。今後短期的に見て改修等の費用は増えないとみている。

全体総括

新病院は山形県地域医療構想や各種将来推計を踏まえ、公立置賜総合病院との機能分化・連携、在宅医療の推進医療施設として整備され、建物の耐震性能確保や患者の療養環境改善も図られた。

新病院改築事業に伴う減価償却費の増加や新型コロナウイルス感染症等への対応、物価上昇・電気料金の高騰などにより厳しい経営環境が続く中、地域住民への医療提供体制を確保するために、更なる収入の確保・経費の削減に取り組んでいく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。